

映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2025」

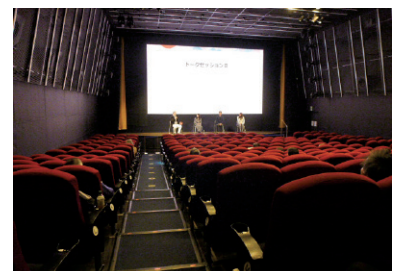


会 期：2025年11月26日（水）～28日（金）
 会 場：表彰式：国立新美術館講堂 上映会：新文芸坐
 主 催：（公社）映像文化製作者連盟
 後 援：文部科学省／経済産業省／東京都／（特非）映像産業振興機構／
 （一社）全国地域映像団体協議会／（一社）日本映画テレビ技術協会／
 （一社）日本アド・コンテンツ制作協会／（一社）日本ポストプロダクション協会／
 日本映画撮影監督協会／日本映画テレビ照明協会／
 （一社）デジタルコンテンツ協会／（株）毎日新聞社／（株）日本経済新聞社／
 （株）朝日新聞社／（株）読売新聞東京本社／（株）映像新聞社／（有）ユニ通信社
 対 象：一般、学生、映像制作関係者
 公式サイト URL：<http://www.eibunren.or.jp/award2025/index.html>



グランプリ表彰風景

総来場者数（参加数）：約1,100人 ※ライブ配信視聴者含む
 プレス社数：3社
 内訳：（国内プレス社数：3社 海外プレス社数： 社）



上映会場（トークセッション風景）

■開催内容

19回目を迎えた、わが国唯一の産業・文化関連の短編映像祭「映文連アワード2025」表彰式は、11月26日（水）午後1時30分から国立新美術館講堂において開催し、最優秀作品賞（グランプリ）を始め、35作品と1名に賞状とトロフィーを授与した。

「映文連アワード2025」受賞作品上映会は、27日（木）～28日（金）に池袋・新文芸坐において開催し、全受賞作品36本を6プログラム（「素晴らしき自然・人々・文化」、「映像自由区_若手監督の映像」、「映像自由区_コーポレート映像」、「社会と未来を考える」、「地方こそフロンティア」、「自分らしく生きる」）に分けて上映。トークセッションも2回開催。

27日夜は、「International Corporate Film Showing 2025」を開催し、World Media Festival、Cannes Corporate Media & TV Awards、US International Awards等の受賞映像18作品を上映した。プロデューサー等関係者のビデオメッセージ等を数本上映したことや、各種映画祭で審査委員を務める木村昭彦副会長の解説付きで、充実した内容となった。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

前回に続き、第38回東京国際映画祭提携企画として実施。

また、コロナ禍ではじめて表彰式の模様を、日経チャンネル（<https://channel.nikkei.co.jp/>）で取材してもらい、ライブ配信する企画を引き続き実施した。今後も当面アーカイブをしてもらい、視聴機会及び認知向上を図る。

併せて、コロナ禍では5年間にわたり未開催だった受賞者懇親会を昨年に引き続き実施した。受賞者同士や審査委員との交流を通して、この数年間はあまり見られなかったかもしれない関係の深まりが垣間見えた。



受賞者集合写真



受賞者集合写真



受賞者集合写真